

秋田県出土銭貨資料一覧(県南版)

No.	遺跡名	所在地	出土時期	内容		文献
S1	深沢	由利本荘市 親川字深沢	昭和59年	昭和59年12月2日、親川字深沢の砂採取跡地(日本海汀線まで600m程の砂丘地)で砂遊びをしていた中学生2人が、甕に入った多量の銭貨を発見した。『秋田魁新報』12月5日付には、「中国の古銭ザクザク・・・2360枚」との記事が載せられている。同紙によると、銭貨が出土したのは、「地下3mほどの土中だった」とされる。壺は10片程に割れていたが、接合の結果、胴下半部から底部のみの須恵器系陶器壺(底部は静止糸切り)であることが判明した。現況での法量は、高さ16.3cm、底径9.8cm、最大径28.5cmであり、陶器内部には緑青が付着しており、明らかに銭貨が入れられていたことを物語る。出土銭貨は現在、容器である甕と共に本荘市郷土資料館に2,426点が保管展示されており、同館において整理作業が継続中である。判読した銭種は、平成8年2月20日現在で次の40種593点である。	開元通寶63、?元重寶2、宋通元寶2、太平通寶13、淳化元寶6、至道元寶9、咸平元寶12、景德元寶11、祥符元寶11、祥符通寶3、天禧通寶14、天聖元寶31、明道元寶8、景祐元寶10、皇宋通寶62、至和元寶3、至和通寶2、嘉祐元寶8、嘉祐通寶4、治平元寶17、治平通寶3、熙寧元寶44、元豐通寶55、元祐通寶50、紹聖元寶29、元符通寶6、聖宋元寶14、大觀通寶20、政和通寶45、宣和通寶6、淳熙元寶9、紹熙元寶4、慶元通寶2、嘉泰通寶1、開禧通寶1、嘉定通寶5、大宋元寶1、紹定通寶1、景定元寶3、正隆元寶3	本例は本荘市教委長谷川潤一氏の教示を得た。
S2	上谷地遺跡第3次	由利本荘市 土谷字上谷地	平成8年	古代由理柵・由理駅などと目される同遺跡は、平成6年から3か年計画で詳細分布調査を実施した。その結果では明確に官衙的施設と推定される遺構等は発見できなかったが、9世紀後半から10世紀代の遺構・遺物は検出されている。銭貨は第3次調査、B区1トレンチ第2層から出土している。	元豐通寶1	本荘市教委『上谷地遺跡詳細分布調査報告書―第3次調査―』1997
S3	履沢館跡	由利本荘市 矢島町立石字沢の内	昭和56年以前	由利十二頭の一である大井氏の家臣履沢氏の居館とされる遺跡である。『秋田県の中世城館』によると「附近開畑の際、陶片、古銭(宋銭)、鉄砲の玉等が出土」と記されているが、詳細は不明である。	―	県教委『秋田県の中世城館』1981
S4	浜館跡	由利本荘市 西目町出戸字館	昭和17年	昭和17年4月、浜館跡公園化に伴う工事中、紐で結わえられた銭貨が両手一杯程(200～300枚位か)出土したそうである。しかし錆着していたことから大部分は捨てられたようである。この時の工事では、石鉢、土器、焼米等も発見されている。銭貨の一部は西目町公民館の斎藤俊明氏により判読されている。内訳は19種類である。なお、同館跡では昭和50年にも銭貨の出土例が報告されており、後記する(S5)。	開元通寶、太平通寶、咸平元寶、天聖元寶、皇宋通寶、治平元寶、熙寧元寶、元豐通寶、元祐通寶、紹聖元寶、聖宋元寶、大觀通寶、政和通寶、宣和通寶、咸淳元寶、洪武通寶、永樂通寶、宣徳通寶、紹平元寶?	―
S5	浜館跡	由利本荘市 西目町出戸字館	昭和50年	由利仲八郎政春の居館(1291～1312年)跡と周知される館跡である。昭和50年に調査が行われており、建物を構成すると見られる柱穴が数多く検出された。銭貨は遺構外より5点出土した。	皇宋通寶1、元祐通寶1、政和通寶1、洪武通寶1、判読不能1	西目町教委『浜館遺跡調査報告書』1975
S6	大久保	由利本荘市 鳥海町大久保	明治31年	明治31年8月、畑耕起中に地下15cm程のところから「黒漆塗りの丸い重鉢(高さ25cm、直径35cm)」に入った多量の銭貨が発見された。その量は推定で8,000～9,000点、重量にして27kgに達するという。銭貨の一部(147点)は、『鳥海町史』に65種の銭名とその点数が記されているが、存在しないはずの銭名(あるいは誤植か)を除いた一覧を次に紹介する。本出土地では大多数の中国銭に混じって和同開珎が含まれている点に特徴がある。	開元通寶8、?元重寶1、周通元寶1、宋通元寶3、太平通寶3、淳化元寶1、至道元寶4、景德元寶5、祥符元寶1、天禧通寶1、明道元寶1、景祐元寶3、皇宋通寶17、至和通寶1、嘉祐通寶3、治平元寶3、治平通寶3、熙寧元寶?2、元豐通寶11、元祐通寶3、紹聖元寶5、元符通寶1、聖宋元寶1、大觀通寶3、政和通寶3、宣和通寶1、淳熙元寶3、紹熙元寶1、慶元通寶1、嘉泰通寶1、開禧通寶1、嘉定通寶1、大宋元寶2、紹定通寶2、皇宋元寶1、景定元寶2、正隆元寶1、和同開珎1	鳥海町『鳥海町史』1985
S7	才之神	由利本荘市 鳥海町才之神字中谷地	昭和33・34年頃	昭和33・34年頃、才之神字中谷地の田地改修工事の際銭貨が出土した。『鳥海町史』によると、「土中から丹念に拾い集めたもの約150枚。そのすべてが宋銭である」と記されている。容器の有無、銭名の記載はない。	―	鳥海町『鳥海町史』1985
S8	片符沢遺跡	由利本荘市 東由利田代字石高(旧東由利町)	昭和54年	主に縄文時代の集落遺跡として周知される。昭和54年に発掘調査が行われ、遺構外より銭貨10点が出土している。報告書には銭種等の記載はなく、新たに秋田県埋蔵文化財センターに保管されている銭貨を判読した。	開元通寶2、咸平元寶1、元豐通寶1、元符通寶1、寛永通寶4、判読不能1	県教委『片符沢遺跡Ⅰ発掘調査報告書』1980
S9	提鍋遺跡	由利本荘市 鳥海町上川内字西野	平成8・9年	縄文時代前期～中期の集落跡、捨て場2カ所を確認。銭貨は旧耕作土中より3点出土と報告。図と観察表あり。	天聖元寶1、寛永通寶2	鳥海町教委『提鍋遺跡』1998
S10	大浦遺跡	由利本荘市 大浦字八走	平成12年	13～15世紀代の掘立柱建物、井戸、道路で構成される集落跡である。銭貨は掘立柱建物跡内から2点、遺構外5点である。前者は、SB37建物跡P1柱穴底面から2点の銭貨が重なった状態で発見された。P1は建物の北西隅柱にあたる。	SB37P1:熙寧元寶1、元祐通寶1／遺構外:寛永通寶4、天保通寶1	県教委『大浦遺跡』2002

No.	遺跡名	所在地	出土時期	内容		文献
S11	横山遺跡	由利本荘市福山	平成13年	10世紀初頭の水田跡を検出、竪穴住居跡や掘立柱建物跡も確認。中世には散布地として須恵器系陶器が出土。銭貨は、A区遺構外から1点、B・C区遺構内(SD11)から2点出土している。図と観察表あり。SD11は、水田跡上層に掘られた水路跡である。	A区:寛永通寶1(遺構外)、B・C区:至道元寶1・太平通寶1(SD11)	県教委『横山遺跡』2003
S12	上谷地遺跡	由利本荘市土谷	平成13～15年	縄文時代の水さらし場、古代の集落・祭祀場跡、中世の集落跡である。銭貨は遺構外より2点出土した。	紹聖元寶1、政和通寶1	県教委『上谷地遺跡 新谷地遺跡』2005
S13	本荘城跡 三の丸北西地区	由利本荘市出戸町字尾崎	平成13年	慶長17年(1612)頃に築城された近世城館跡である。出土遺物に銭貨(寛永通寶)等と記述されるが、図・写真なし。	寛永通寶	本荘市教委『遺跡詳細分布調査報告書』2003
S14	土花遺跡第1次	由利本荘市万願寺	平成13年	古代の段状通路跡、中世の溝跡、近世の水田跡等が検出された。銭貨は旧耕作土下から2点出土した。	寛永通寶2	本荘市教委『土花遺跡』2002
S15	花遺跡第2次	由利本荘市万願寺	平成14年	中世の集落跡である。掘立柱建物跡、井戸跡、火葬墓が検出された。銭貨は4点出土している。出土位置の記述はない。	寛永通寶4	本荘市教委『土花遺跡(第二次調査)』2003
S16	大坪遺跡	由利本荘市畑谷	平成14年	古代集落と中世の鍛冶関連の複合遺跡。銭貨は、溝跡から4点、遺構外から7点出土した。	SD430: 皇宋通寶2、元豐通寶2／遺構外:寛永通寶7	県教委『大坪遺跡』2004
S17	岩倉館跡	由利本荘市福山	平成15・16年	10以上の郭面をもつ中世城館跡である。出土遺物からみた時期は、14～16世紀代である。銭貨は5カ所の郭面から出土した。	I 郭:洪武通寶1、判読不能3／Ⅲ郭:元祐通寶1、紹聖元寶1／Ⅳ郭:洪武通寶1、永樂通寶1、元口通寶1／V 郭:景德元寶1、熙寧元寶1、洪武通寶9、永樂通寶2、判読不能1／北調査区B:元祐通寶1、聖宋元寶1、寛永通寶1	県教委『岩倉館跡』2007
S18	山崎館跡	由利本荘市東鮎川字蒲田前	平成15年	戦国時代の山城跡とされる遺跡である。銭貨はD郭の2層上面から1点出土した。	永樂通寶1	由利本荘市教委『山崎館・蒲田館確認調査報告書』2006
S19	丁刃森	にかほ市平沢	昭和初年	昭和初年、日本海に注ぐ小河川である大沢河口改修の際、独立小丘状を呈する丁刃森南辺より、経石とともに銭貨が出土したという。経石は、丁刃森中腹に座する板碑(建武碑:建武四年の年号が彫られている)の下に埋め戻されたそうであるが、銭貨の所在は不明である。ただし出典は明らかではないが、昭和6年頃に記録されたと思われる銭貨の略図(線書)が残されており、それによると、次の22種39点が図示されている。	開元通寶1、?元重寶1、咸平元寶1、景德元寶1、祥符元寶1、天禧通寶1、天聖元寶2、景祐元寶1、皇宋通寶4、至和元寶3、嘉祐元寶2、治平元寶1、熙寧元寶3、元豐通寶2、元祐通寶3、紹聖元寶2、元符通寶1、聖宋元寶4、政和通寶2、宣和通寶1、淳熙元寶1、紹定通寶1	略図は町教委に保管。町文化財保護協会遠田喜一氏から教示いただいた。
S20	阿部堂遺跡	にかほ市両前寺字阿部堂	昭和50年	昭和50年、両前寺字阿部堂に所在する香取神社脇の北側斜面において道路拡幅工事中に麻縄に通した360点の銭貨が発見された。現在銭貨は、両前寺の公民館に143点、旧仁賀保町町勤労青少年ホームに12点の計155点が保管・展示されている。その内訳は次のとおりである。	開元通寶16、宋通元寶1、太平通寶1、淳化元寶1、至道元寶2、咸平元寶2、景德元寶7、祥符元寶7、祥符通寶1、天禧通寶4、天聖元寶8、景祐元寶2、皇宋通寶27、至和元寶2、嘉祐元寶3、嘉祐通寶1、治平元寶1、熙寧元寶11、元豐通寶14、元祐通寶16、紹聖元寶16、元符通寶2、聖宋元寶8、政和通寶2	作成者実見・調査
S21	薬師堂脇	にかほ市象潟町	天保13年(1842)	『象潟町史 資料編Ⅱ』によると、天保13年(1842)、「薬師堂の道脇に水路工事中(の)二月十三日、(小田原)新兵工の裏地より古銭(文字替り)七貫四百文掘り出し、右之趣町奉行小野勝江殿江届け」たとある。	—	象潟町『象潟町史 資料編Ⅱ』1996
S22	薬師堂裏山	にかほ市象潟町	天保13年(1842)	『象潟町史 資料編Ⅱ』によると、天保13年(1842)7月3日、(薬師堂)「裏山より又々文字替銭十一貫九百文掘出し、即日、奉行所へ差上げた」とある。	—	象潟町『象潟町史 資料編Ⅱ』1996
S23	陽明庵	にかほ市象潟町	文化元年(1804)	『象潟町史 資料編Ⅱ』によると、「文化元年(1804)の地震にて半潰したる陽明庵が改築工事にて地盤固めの節、柱根石の傍より古文字銭三貫五百文を掘り出したり」とある。	—	象潟町『象潟町史 資料編Ⅱ』1996
S24	法華塚	にかほ市象潟町	元治元年(1864)	『象潟町史 資料編Ⅱ』によると、「元治元年(1864)三月五日、中塩越・佐々木惣右工門、火灯山麓(俗称法華塚)の所有畑地より古銭二貫六百文余を掘り出したり。寛永以前の古銭にて、支那銭多かりしと云う」とある。	—	象潟町『象潟町史 資料編Ⅱ』1996
S25	薬師堂付近?	にかほ市象潟町	明治16年(1883)	『象潟町史 資料編Ⅱ』によると、「明治十六年(1883)四月、竹島間平が其の所有屋敷に土蔵建設の為、地盤固めの際、地中より古銭二貫百五十文と古瓶二個を掘り出し」たとある。出土地は明確ではないが、「此地は小田原新兵工の隣家に地続きなり」とあることから、S21の薬師堂脇に近い位置と思われる。	—	象潟町『象潟町史 資料編Ⅱ』1996
S26	カウヤ遺跡第1次	にかほ市象潟町小砂川字カウヤ	昭和59年	秋田県南西隅に位置し、日本海・江線まで200m程の海成段丘上に立地する。昭和59・60年に調査が行われ、県内では検出例の少ない製塩関係の遺構等が確認されている。第1次調査では遺構外より寛永通寶1点出土している。	寛永通寶1	県教委『カウヤ遺跡発掘調査報告書』1985

No.	遺跡名	所在地	出土時期	内容		文献
S27	カウヤ遺跡第2次	にかほ市象潟町小砂川字カウヤ	昭和60年	第2次調査では溝跡より12点、遺構外4点の計16点が出土した。SD05とした溝跡は、底面出土の土器類から8世紀後半に構築されたようであるが、銭貨は「溝確認面のやや下から銅銭12枚が重って一括出土」した。	SD05:天聖元寶1、皇宋通寶2、嘉祐通寶1、治平元寶1、熙寧元寶2、元豐通寶2、元祐通寶1、大観通寶1、永樂通寶1／遺構外:元豐通寶1、紹聖元寶1、寛永通寶1、判読不能1	県教委『カウヤ遺跡第2次発掘調査報告書』1986
S28	御嶽公園館跡	にかほ市象潟町横山	平成11年	中世城館であり、土塁・空堀跡等が検出された。銭貨は遺構外から3点出土した。	寛永通寶2、判読不能1	県教委『御嶽公園館跡』2001
S29	ヲフキ遺跡第2次	にかほ市象潟町大砂川字カクチタ	平成11年	縄文時代中期から晩期及び弥生時代にかけての集落跡、中世から近世にかけての集落跡である。銭貨は遺構外より10点出土している。図あり。	聖宋元寶1、寛永通寶5、一分銀銭1、判読不能3	県教委『ヲフキ遺跡』2001
S30	ヲフキ遺跡第3次	にかほ市象潟町大砂川	平成12年	縄文時代の墓域・祭祀跡である。古代～中近世にかけては遺物散布地として報告されている。銭貨の出土状況の記述や図・写真は無い。	寛永通寶5、判読不能・不明1	県教委『ヲフキ遺跡』2003
S31	黒森	仙北市角館町山谷川崎字黒森	昭和45年	『秋田銭貨史』によると、昭和45年「角館町黒森の田、地下七十糎の所から宋銭明銭多数出土す」とある。黒森は、角館町北部の山谷川崎字黒森を指すと思われる。	—	佐藤清一郎『秋田銭貨史』1972
S32	羽根ヶ台Ⅰ遺跡	仙北市田沢湖小松字羽根ヶ台	昭和51年以前	『秋田県遺跡地図(県南版)』によると、本遺跡では土師器、須恵器と共に銭貨が得られているとされる。詳細は不明である。	—	県教委『秋田県遺跡地図(県南版)』1987
S33	中山遺跡	仙北市田沢湖田沢字猫	昭和51年以前	『秋田県遺跡地図(県南版)』によると、遺跡の種別は寺跡、遺物は「古銭、土師器片、縄文土器片、石皿」とある。詳細不明である。	—	県教委『秋田県遺跡地図(県南版)』1987
S34	仁瀬沢遺跡	仙北市西木町西明寺字松木台	昭和32年	『西木村郷土史資料』によると、昭和32年佐藤正作氏の調査として、仁瀬沢で石鏃、石小刀、古銭(洪武通寶外)出土と記されている。	洪武通寶	西木村郷土史編纂会『西木村郷土史資料』西明寺篇中巻 1968
S35	四ツ屋	大仙市四ツ屋	文政8年(1825)	『月の出羽路』(仙北郡八)四ツ屋邑の項に、旧大曲市四ツ屋の玉川(雄物川の支流)縁で出土したという銭貨についての記載が見られる。「文政八年(1825)乙酉三月の末その日、玉川の岸崩たり。むかしそこに了徳と云ひし医者家居跡にて、字地を了徳といふ。其跡あたりとおぼしくて古銭幣こころ出たり。そが中に五殊泉もまじりたるよし。」とし、別添の図絵には7点の銭貨拓影図が掲載されている。銭名についての記述はないが、五銖銭の拓影はなく、次の4種の銭名が判読できる。	天聖元寶、皇宋通寶、治平元寶、政和通寶	内田武志・宮本常一編『菅江真澄全集』第7巻 1978
S36	八幡神社下	大仙市大曲丸の内町	昭和9年	『秋田銭貨史』によると、昭和9年「大曲市八幡神社下の雄物川の欠地より宋銭度々出土す」とある。八幡神社下には、雄物川の支流丸子川が流れており、ここから出土したものらしい。	—	佐藤清一郎『秋田銭貨史』1972
S37	大町	大仙市大曲大町	昭和29年	『秋田銭貨史』によると、昭和29年「大曲市大町のビル工事中、カメに入った古銭多量に出土す」とある。詳細は不明である。	—	佐藤清一郎『秋田銭貨史』1972
S38	角間川	大仙市角間川町	戦前	『秋田銭貨史』によると、「大曲市角間川の横手川々欠地より宋銭度々出土」とある。時期は不明であるが、戦前のものである。	—	佐藤清一郎『秋田銭貨史』1972
S39	百目木遺跡	大仙市板見内字百目木	昭和60年以前	『秋田県遺跡地図(県南版)』によると、元豐通寶出土と記載されている。詳細は不明である。	元豐通寶	県教委『秋田県遺跡地図(県南版)』1987
S40	子越沢田	大仙市強首	文政12年(1829)以前	『月の出羽路』(仙北郡二)強首村の項に、「子越沢田新墾せしとき、人の白骨あまた古銭なども掘り出たり」とあり、墓内より銭貨が出土したことが窺える。旧強首村には、根越沢田の小字名が残る。	—	内田武志・宮本常一編『菅江真澄全集』第7巻 1978
S41	坂繫	大仙市円行寺字坂繫	昭和40年	『秋田銭貨史』によると、昭和40年「大沢郷坂繫の開墾地から宋明銭四十八種九百八十枚発掘」とある。大沢郷坂繫は、旧西仙北町円行寺字坂繫にあたるようである。	—	佐藤清一郎『秋田銭貨史』1972
S42	谷地田	大仙市南外字谷地田	昭和45年	昭和45年9月8日、林道改修工事中に地表より20～30cm位下で曲物に入った多量の銭貨が出土した。『秋田民報』9月12日付けの記事によると、「直径32cm、高さ23cmのマサ目の曲げわっぱのようなもの」に50種類約13,000点、重量にして39Kgの銭貨が発見されている。個々の銭名の記載はないが、最古銭は開元通寶、最新銭は皇宋元寶と記されている。これら銭貨は後日古物商に売却したとのことである。	—	『秋田民報』昭和45年9月12日付け記事
S43	峰吉川小学校	大仙市協和峰吉川	昭和42年	『秋田銭貨史』によると、昭和42年「協和町峰吉川小学校の高台で道路工事中五貫六百目の宋銭出土」とある。詳細は不明である。	—	佐藤清一郎『秋田銭貨史』1972

No.	遺跡名	所在地	出土時期	内容		文献
S44	寄騎館遺跡	大仙市協和峰吉川字芦沢通	平成8年	縄文時代(中期・晩期)と中世の複合遺跡である。平成8年に道路建設に伴う調査が行われた。中世の遺構は、土坑墓2基・火葬墓1基である。遺物の出土した遺構は、土坑墓(第2号C土坑=SK19)のみであり、銭貨以外の遺物は認められない。SK19は径1.33mの円形を呈し、深さは0.76mである。銭貨は、底面からやや浮く形で3箇所より計8点出土した。銭種の明らかなものは右記の3点である。また遺構外より寛永通寶1点が得られている。外径が29mmあり4文銭と思われる。本例は火熱を受け変形・変色している。	SK19:天聖元寶1・聖宋元寶1・皇宋通寶1・判読不能5／遺構外:寛永通寶1	県教委『寄騎館遺跡』1998
S45	新田表Ⅱ遺跡	大仙市協和荒川	平成13年	縄文時代の集落跡、近世の掘立柱建物跡・井戸跡も検出。銭貨は、遺構外より5点出土した。図・写真あり。	寛永通寶5	協和町教委『新田表Ⅱ遺跡』2002
S46	茨野遺跡	大仙市北樫岡(旧神岡町)	平成14・15年	縄文時代の集落・墓域と中世の集落跡である。銭貨は井戸枠内から1点、遺構外2点の出土である。井戸は13世紀代に構築されたと考えられる。	SE842:元豊通寶1、遺構外:洪武通寶2	神岡町教委『茨野遺跡』2004
S47	小鳥田Ⅰ遺跡	大仙市払田字館前	平成15年	古代の集落遺跡。中世以降は遺物散布地として周知される。銭貨は遺構外より4点出土。図と観察表が示されている。	元豊通寶1、永楽通寶1、寛永通寶2	県教委『小鳥田Ⅰ遺跡』2005
S48	払田柵跡第43次	大仙市払田字長森・百目木	昭和56年	古代の城柵官衙遺跡である。第43次調査区は長森丘陵南側の沖積地(微高地)上にあたる。ここでは近世～明治期の掘立柱建物跡や溝跡が検出された。銭貨は屋敷廻りの溝跡内1点、土坑内2点、遺構外13点である。報告では遺構外出土の5点の銭貨拓影図が載せられている。	SD439:判読不能1点、pit1:寛永通寶2、遺構外:寛永通寶13	県教委『払田柵跡-第38～45次発掘調査概要-』1982
S49	払田柵跡第49-2次	大仙市払田字長森	昭和58年	第49-2次は、政庁域北西から部のホイド清水(井戸)周辺の調査である。ホイド清水(SE550)は、古代から現在に至るまで開口している井戸であり、土師器・須恵器・木簡・絵馬とともに近世期の銭貨も認められる。ただし、銭貨出土の報告はない。払田柵跡調査事務所に遺物が保管されている。	SE550:寛永通寶4	県教委『払田柵跡-第49-2～3・53・54次発掘調査概要-』1984
S50	払田柵跡第54次	大仙市払田字長森	昭和58年	第54次調査は、外郭南門東側が対象である。遺構外から銭貨4点が出土した。うち3点は固着した状態で発見された。未報告。	判読不能4	県教委『払田柵跡-第49-2～3・53・54次発掘調査概要-』1984
S51	払田柵跡第55次	大仙市払田字長森	昭和59年	第55次は、外郭南門西脇部の調査である。古代の遺構・遺物と共に中世の須恵器系陶器や明染付・美濃小皿、近世の陶磁器と共に銭貨が1点出土している。未報告で図なし。	遺構外:聖宋元寶1	県教委『払田柵跡-第55～59次発掘調査概要-』1985
S52	払田柵跡第90次	大仙市払田字長森	平成3年	第90次は、政庁東側の調査である。いわゆる政庁東方官衙ブロック(建物群)が確認された箇所にあたる。遺構外から銭貨が1点出土しているが、未報告である。	寛永通寶1	県教委『払田柵跡-第88～91次調査概要-』1992
S53	払田柵跡第93次	大仙市払田字仲谷地	平成4年	第93次は、外柵南門と外郭南門間の調査である。ここには河川敷が存在し、橋脚が発見された。遺構外では4点の銭貨も出土しているが、未報告である。	元豊通寶1、寛永通寶2、判読不能(丸穿)1	県教委『払田柵跡-第92・93次調査概要-』1993
S54	払田柵跡第100次	大仙市払田字長森	平成6年	第100次は、政庁東側の官衙ブロックのされる箇所の調査である。遺構外から銭貨が1点出土した。未報告。	判読不能1	県教委『払田柵跡-第98・101次調査概要-』1995
S55	払田柵跡第115次	大仙市払田字長森	平成11年	第115次は、政庁域西側の丘陵部の調査である。古代の建物跡等と共に縄文時代の土坑等も検出された。銭貨は、硬質泥岩が分布する丘陵頂部南側に擂鉢状の窪地として攪乱されたSK1217の表土にて1点採集された。	SK1217:寛永通寶1	県教委『払田柵跡 第115・116次調査概要』2000
S56	払田柵跡第119次	大仙市払田字長森	平成13年	第119次は、長森丘陵西側北向き緩斜面部の調査である。古代の鍛冶関係の炉や工房跡が検出された他、13世紀代の墳墓に関連した遺構群と共に同安窯系の青磁も出土した。銭貨は、遺構外の2カ所から6点出土した。うちひとつは5点が固着した状態で発見された。図示・判読不能。	寛永通寶1、判読不能5	県教委『払田柵跡 第119・120次調査概要』2002
S57	払田柵跡第126次	大仙市払田字長森	平成16年	第126次は、政庁域西側丘陵部の調査である。古代の遺構と共に中世(15世紀末～16世紀代)の土坑墓が2基検出された。銭貨は、SK1672とした土坑内5カ所から16点出土した。うち2カ所では6点(いずれも洪武通寶5点、判読不能1)まとまって発見された。	SK1672:元祐通寶1、洪武通寶10、判読不能5	県教委『払田柵跡 第125～128次調査概要』
S58	払田柵跡第130次	大仙市払田字百目木	平成17年	第130次は、政庁域北西部のホイド清水の東側隣接地を対象とした。ここでは政庁からホイド清水に向かう通路跡が検出された。銭貨は遺構外より1点出土した。未報告。	寛永通寶1	県教委『払田柵跡 第129～131次調査概要』2006
S59	安楽寺跡	美郷町六郷字安楽寺	文政12年(1829)以前	『月の出羽路』(仙北郡一二)には、旧六郷町大悲山真光寺所蔵の銭貨を紹介している。これによると、銭貨は「安楽寺古跡畠中に掘出る」とし、5点の拓影図が載せられている。このうち八銖半両は長野県塩尻市吉田若宮1次出土銭錢に類似する。安楽寺は14世紀後半には廃寺となったようである。	貨泉(新)新1、八銖半両(前漢)1、五銖(六朝)1、五銖(後漢)1、富壽神寶1	内田武志・宮本常一編『菅江真澄全集』第7巻 1978
S60	上鍵田	美郷町六郷字鍵田	昭和35年	『秋田銭貨史』によると、昭和35年「六郷町上鍵田で開田中、宋銭約六貫目出土す」とある。	—	佐藤清一郎『秋田銭貨史』1972

No.	遺跡名	所在地	出土時期	内容		文献
S61	厨川谷地遺跡	美郷町土崎字厨川谷地	大正4年	大正4年秋、厨川谷地の水田下より2度にわたり計約12,000点の銭貨が掘り出された。埋納していた容器の有無は不明であるが、銭貨は「二尺ほどの藁らしいものと一緒に」出土したようである。その他の遺物には、「飯器、須恵器の破片・・・住家が消失したと思われる多量の凝灰物も見られたと伝えられている」がある。大正13年9月、内務省史蹟考古官柴田常恵が銭貨約500点を鑑定し、「大部分が宋代の銭である。『洪武通寶』『永楽通寶』などは1枚も見当たらなかった。・・・(3枚の)『五銖』銭を発見した。其の外珍しいのに『建炎通寶』がある」と記録されているが、その他の銭種は明らかではない。	—	千畑町「古銭発掘由来記」『千畑町郷土誌』1986
S62	厨川谷地遺跡	美郷町土崎字厨川谷地	平成13年	上記出土地は、平成13年にほ場整備事業に伴う発掘調査が実施された。その結果、埋蔵銭に関係する中世の遺構等は検出されず、古代の祭祀遺構が確認された。これは隣接する払田柵跡に関連施設であることが判明した。銭貨は遺構外より、近世期の遺物として陶磁器類、煙管、木簡と共に銭貨3点が出土した。	寛永通寶3	県教委『厨川谷地遺跡』2005
S63	土崎	美郷町土崎字土崎林	昭和36年	昭和36年7月15日付『仙東新聞』によると、同年5月7日、旧千畑町土崎字土崎林で水路工事中、曲物に入った「古銭が約26.2kg(7貫目)」出土したそうである。詳細は不明であるが、同紙には20数年前にも同地で「カマスにはいった古銭をたくさん見つけた」とも記されている。	—	『仙東新聞』昭和36年7月15日付記事
S64	畑屋	美郷町畑屋	昭和30年代	『秋田銭貨史』によると、「畑屋村で数貫目の宋銭出土す」とある。昭和30年代の出土と思われる。	—	佐藤清一郎『秋田銭貨史』1972
S65	君堂	美郷町飯詰字君堂	昭和32年	『秋田銭貨史』によると、昭和32年に「飯詰字君堂の田から約十貫目宋明銭出土」と記載されている。発見者宅に照会したところ、銭貨は現在所在不明とのことである。	—	佐藤清一郎『秋田銭貨史』1972
S66	中屋敷Ⅱ遺跡(町調査)	美郷町土崎	平成14年	縄文時代と中近世の集落跡である。銭貨は表採として2点が図示され、観察表が付されている。	元豊通寶1、寛永通寶1	千畑町教委『中屋敷Ⅱ遺跡』2004
S67	中屋敷Ⅱ遺跡第1次(県調査)	美郷町土崎	平成14年	縄文時代から古代・中世の集落跡。第1次調査では出土位置の記録はないが、中世以降の遺物の項目に銭貨20点が図示されている。1点は小型の無文銭である。	開元通寶4、元豊通寶3、元祐通寶2、永楽通寶1、宣徳通寶1、寛永通寶8、無文銭1	県教委『中屋敷Ⅱ遺跡』2005
S68	中屋敷Ⅱ遺跡第2次(県調査)	美郷町土崎	平成15年	第2次調査では、遺構外より8点の銭貨が図示され計測値が入れられた表が示されている。	寛永通寶7、文久永寶1	県教委『中屋敷Ⅱ遺跡』2005
S69	根子荒田Ⅰ遺跡	美郷町六郷	平成18年	古代集落と中世以降の遺物包含地である。銭貨は、遺構外より7点出土した。紹聖元寶のみ図示されている。	紹聖元寶1、寛永通寶4、判読不能2	美郷町教委『根子荒田Ⅰ遺跡』2007
S70	横手城本丸	横手市城山町	戦前	『秋田銭貨史』によると、「横手城本丸の曲り道から洪武通寶出土」とある。時期は不明であるが、戦前のものである。	洪武通寶	佐藤清一郎『秋田銭貨史』1972
S71	大鳥井山遺跡第1次	横手市大鳥町	昭和52年	後三年の合戦(1083～87年)で滅亡する清原氏の一族大鳥山太郎頼遠の本拠地と目される防御性の極めて強い柵跡である。昭和52年から7次にわたる調査が行われ、二重の土塁・空堀と柵列で囲まれた内部に掘立柱建物を中心とする建物群等が検出されている。銭貨は外側の空堀(SC2)内、現地表面下1.1mの第8層より「孔を通した紐と共に連珠状に」計53点出土した。	開元通寶2、開元通寶(紀)1、咸平元寶1、景德元寶2、祥符通寶1、景祐元寶1、皇宋通寶5、嘉祐通寶1、治平元寶1、熙寧元寶4、元豊通寶8、元祐通寶4、紹聖元寶4、元符通寶3、政和通寶2、慶元通寶1、判読不能12	横手市教委『大鳥井山Ⅰ』1978
S72	金沢柵跡	横手市金沢中野	昭和40・41年	後三年の合戦(1083～87年)で最後の戦場となった柵跡として周知される遺跡である。昭和39年より5次にわたる調査が行われ、掘立柱建物跡、空堀等が検出されている。これら遺構と出土遺物から判断しても、史上に登場する金沢柵であったとする確証は得られていない。銭貨は、本丸表土層より1点出土している。	開禧通寶1	県教委『金沢柵発掘調査概報』1967
S73	手取清水遺跡	横手市清水町新田字手取清水	昭和62年	弥生時代の遺跡として周知されており、昭和62年に調査が実施されている。この結果、縄文～近世の複合遺跡であることが判明した。銭貨は調査区内で検出された旧河川より7点出土した。	熙寧元寶1、大観通寶1、寛永通寶2、寛永通寶か1、文久永寶か1、判読不能1	県教委「手取清水遺跡」『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅴ』1990
S74	十二牲B遺跡	横手市金沢中野字十二牲	平成10年	平安時代・中世・近世の複合遺跡である。平成10年に発掘調査が実施された。平安時代では土師器焼成遺構・掘立柱建物跡などが検出され、調査区外に存在が推定される須恵器窯跡とあわせて土器生産に係る集落であったと判断される。中・近世では遺構の検出はなかったものの、11点の銭貨が出土している。共伴の陶磁器から16世紀代に帰属すると考えられる。	開元通寶2、天禧通寶1、紹聖元寶1、紹興元寶1、紹平通寶1、寛永通寶5	秋田県埋蔵文化財センター『十二牲B遺跡発掘調査資料』1999(銭貨筆者実見)

No.	遺跡名	所在地	出土時期	内容		文献
S75	愛宕山	横手市羽黒町	昭和51年	昭和51年9月27日、愛宕山中腹の斜面地で小学生2人が土中より容器に入った銭貨を発見した。容器は古伊万りの德利状の小壺（現存高9.8cm）であり、中には慶長一分金が104点入れられていた。その後10月18日に同じ場所から1点発見され、計105点となった。『秋田魁新報』10月1日付には、「出た 金貨がザクザク」との記事が掲載。銭貨は、昭和52年4月に鑑定・評価が行われ、次のように分類されている。慶長手前吹き（古慶長）17、慶長長花押47、慶長短花押21、慶長大頭光8、慶長小字10、慶長細字2である。出土品は現在、銭貨・容器共に秋田県立博物館に保管・展示されている。	慶長一分金105	高橋学「横手市愛宕山出土の慶長一分金」『近世の出土銭Ⅰ-論考篇-』1997
S76	馬鞍館跡	横手市平鹿町醍醐字馬鞍	—	小野寺氏が平鹿郡進出の最初の拠点の1つとされる館跡である。『平鹿町史』によると、「北の郭と西の郭の間の果樹園を開墾した際に焼米や炭化材及び礎石に使用したと思われるような礫とともに古銭貨が出土している。出土量は明らかではないが、同町史には右記の6点の銭貨拓影が載せられている。	開元通寶1、政和通寶1、洪武通寶1、永樂通寶1、判読不能2	平鹿町『平鹿町史』1984
S77	植田	横手市十文字町植田字植田	平成2年	平成2年2月9日、植田字植田の住宅地で3,088点の銭貨が出土した。ここでは排水路を作るため溝を掘っていたところ、地表下約1mの深さから紐状のもので束ねていた銭貨が一塊の状態で発見された。外容器の有無は不明であるが、銭貨水洗いの際に小さな木片が認められたことから木製の器に入れられていた可能性はある。また銭貨以外の遺物は確認できなかったそうである。これら銭貨は、十文字町史編集室により分類が行われており、銭名と共に書体についても調べられている。ここでは銭種とその点数のみ引用する。遺物は町教委で保管しており、一部は十文字町十字館に展示されている。	五銖（後漢）3、開元通寶296、?元重寶7、宋通元寶3、太平通寶26、淳化元寶18、至道元寶22、咸平元寶41、景德元寶55、祥符元寶80、祥符通寶34、天禧通寶55、天聖元寶120、明道元寶7、景祐元寶40、皇宋通寶346、至和元寶13、至和通寶3、嘉祐元寶15、嘉祐通寶36、治平元寶40、治平通寶2、熙寧元寶233、元豐通寶337、元祐通寶281、紹聖元寶116、元符通寶32、聖宋元寶98、大觀通寶53、政和通寶155、宣和通寶3、淳熙元寶12、紹熙元寶1、慶元通寶1、嘉泰通寶2、嘉定通寶13、淳祐元寶1、正隆元寶3、判読不能485	十文字町『十文字町史』1996
S78	二井山	横手市雄物川町二井山字七滝	昭和37年	昭和37年、二井山の法龍山日宮山（神社）において、杉苗植林中に地下約30cmのところから、木箱（約30cm四方）に入った状態で銭貨が出土した。出土時の点数は不明であるが、現存する519点については整理されている。銭貨の一部は現在雄物川町郷土資料館に展示しており、その他は発見者宅で保管している。	開元通寶23、宋通元寶1、淳化元寶5、至道元寶11、咸平元寶9、景德元寶11、祥符元寶45、天禧通寶12、天聖元寶13、明道元寶3、景祐元寶3、皇宋通寶12、治平元寶2、熙寧元寶13、元豐通寶11、元祐通寶3、聖宋元寶3、大觀通寶4、政和通寶13、宣和通寶2、淳熙元寶2、開禧通寶1、正隆元寶3、至大通寶9、洪武通寶101、永樂通寶3、宣徳通寶9、大和通寶1、洪順通寶1、大世通寶2、判読不能188	雄物川町役場『雄物川町郷土史』1980
S79	善光堂	横手市大森町上溝	文政7年（1824）以前	『雪の出羽路』（平鹿郡三）上溝村の項、寺内の善光堂では、「近き年ならむか、此処より古銭幣四五貫文掘り出し事あるてふ」との記事が載せられている。同項の執筆は、文政7年（1824）とされることから1810～20年代の出土か。『秋田県遺跡地図（県南版）』には、善光寺廃寺跡として「板碑、銭貨108枚」と記録されている。	—	内田武志・宮本常一編『菅江真澄全集』第6巻 1976／県教委『秋田県遺跡地図（県南版）』1987
S80	鉢山館跡	横手市大森町猿田字鉢山下り	—	『秋田県遺跡地図（県南版）』には、館跡として周知され、「井戸、古鏡、古銭等出土」と記されている。詳細は不明である。	—	県教委『秋田県遺跡地図（県南版）』1987
S81	江原嶋1遺跡	横手市大雄東阿北気	平成10年	主に縄文時代（中期・後期）と平安時代（9～10世紀前半）の複合遺跡である。平成10年に発掘調査が行われ、平安時代では、掘立柱建物を中心とする集落であることが明らかとなり、集落の周りに溝や柵を巡らす構造をとる。また遺構外（包含層）では中・近世の陶磁器類と銅鏡・銭貨が出土している。出土点数は、平成11年5月現在で11点を確認している。	熙寧元寶1、至大通寶2、洪武通寶1、宣徳通寶1、寛永通寶3、判読不能3	秋田県埋蔵文化財センター『江原嶋1遺跡発掘調査資料』1999（銭貨筆者実見）
S82	観音寺廃寺跡	横手市大森町上溝	平成11年	12～13世紀代の寺院関連施設を検出。掘立柱建物を付属する水辺で祭祀が行われていた。15～17世紀にも寺院として再び利用される。銭貨は41点出土している。うち1点は、SX4329土坑出土であり、12～13世紀代の水辺祭祀に関連して埋納された可能性がある」と報告されている。他の40点は後者の時期の寺院に関係するものか。図と観察表あり。	SX4329：景德元寶1／開元通寶2、天禧通寶1、景祐元寶1、嘉祐通寶2、治平元寶1、熙寧元寶1、元祐通寶1、聖宋元寶1、至大通寶1、洪武通寶6、永樂通寶1、朝鮮通寶1、寛永通寶12、無文銭6、判読不能2	県教委『観音寺廃寺跡』2001
S83	八卦遺跡	横手市雄物川町沼館	平成14年	古代の集落遺跡である。銭貨は確認調査時に1点出土した。	寛永通寶1	雄物川町教委「八卦遺跡」『遺跡詳細分布調査報告書』2003
S84	大見内遺跡	横手市雄物川町薄井	平成14年	古代の集落遺跡である。河川での祭祀跡が確認されている。中世以降は遺物散布地して中世陶器・銭貨が出土。銭貨は遺構外出土であり、図と観察表が付されている。	治平元寶1	県教委『大見内遺跡』2004

No.	遺跡名	所在地	出土時期	内容		文献
S85	境沢田遺跡	横手市平鹿町下鍋倉	平成14年	縄文時代の遺物包含地である。旧耕作土中より銭貨が1点出土した。	寛永通寶1	平鹿町教委『下雨沼遺跡 境沢田遺跡』2003
S86	館野遺跡	横手市雄物川町薄井字長願	平成15年	近世の塚が1基検出された。銭貨は塚の盛土中より2点出土した。	寛永通寶2	県教委『大見内遺跡・館野遺跡』2005／今野沙貴子「館野遺跡」『横手市史資料編考古』2007
S87	耳取遺跡	横手市雄物川町造山	平成15年	近世の土坑、溝跡等が検出された。銭貨は遺構外より1点出土した。	寛永通寶1	雄物川町教委『耳取遺跡 釘貫遺跡』2004
S88	オホン清水A遺跡第4次	横手市塚堀字般若寺	平成15年	縄文時代後期～晩期の墓域、古代の集落跡である。銭貨はA地区の溝跡から1点、遺構外1点の出土である。	SD401:永楽通寶1／遺構外:文久永寶1	横手市教委『オホン清水A遺跡第Ⅳ・Ⅴ次 薬師前B遺跡』2005
S89	番太村	湯沢市高松か	宝暦年間(1851～64)	菅江真澄の『雪の出羽路』(雄勝郡一)須川村の項に古跡として「番太村とて橋より西の方にむかし家居ありし村跡也、そこに近き古河の辺りに、宝暦[1751～64]のころ古銭あまた掘得し」との記録が残っている。番太村の地名は現存しないが、旧高松村の小字に番沢がある。	—	内田武志・宮本常一編『菅江真澄全集』第5巻 1975
S90	松岡経塚	湯沢市松岡字坊中	昭和29年	長径5.7m、短径4.5mの楕円形を呈し、葦石で覆われた塚である。昭和29年偶然に発見され、内部より寿永3年(1184)と建久7年(1196)銘の入る銅製経筒2組、刀子、土師器壺、須恵器甕などと共に銭貨1点出土した。出土の位置、状況は不明である。	洪武通寶1	秋田県『秋田県史考古編』1960、山下孫継『湯沢市雄勝郡の埋蔵文化財』湯沢市教委 1961
S91	土沢	湯沢市土沢字西土沢	大正5年頃	大正5年頃、山田村「土沢字西土沢の畑地より古銭貨一千余枚」が出土した。「発掘当時の状況を聞くと、土を掘って木炭を敷き詰め、その上に古銭貨を棧木に積み重ねてあった」そうである。現在600～700点が現存しているようである。『湯沢市史』によると、判読されている銭名は次の28種、100点である。	開元通寶1、?元重寶1、太平通寶3、淳化元寶4、至道元寶4、咸平元寶1、景德元寶5、祥符元寶1、天禧通寶5、天聖元寶6、景祐元寶2、皇宋通寶8、至和元寶3、嘉祐通寶2、治平元寶11、熙寧元寶6、元豐通寶7、元祐通寶6、聖宋元寶6、大観通寶2、政和通寶5、宣和通寶4、建炎通寶1、慶元通寶1、嘉泰通寶1、嘉定通寶1、淳祐元寶2、正隆元寶1	湯沢市教委「埋蔵古銭貨」『湯沢市史』1965
S92	横堀	湯沢市横堀(旧雄勝町)	昭和20年代	『秋田銭貨史』によると、「雄勝郡横堀村井戸掘り中に、宋銭約六貫出土」とある。昭和20年代の出土と思われるが詳細は不明である。	—	佐藤清一郎『秋田銭貨史』1972
S93	鵜沼城跡	湯沢市桑ヶ崎字平城(旧雄勝町)	昭和54年	中世～江戸中期の城館・集落跡である。昭和54年の調査において、掘立柱建物跡59棟、井戸跡68基、土坑等が検出され、遺構内外より21点の銭貨が出土。遺構内では井戸跡(SE72)及び溝跡(SD212)より寛永通寶(背:文)が各1点、遺構外は右のとおり。遺構外のうちの5点(開元、景德、皇宋、熙寧、永楽各1)は重なって出土しており、紐で結んでいた痕跡が残る。	開元通寶1、景德元寶1、皇宋通寶2、治平通寶か1、熙寧元寶1、紹聖元寶1、洪武通寶1、永楽通寶2、寛永通寶9、無文銭1	県教委『鵜沼城跡発掘調査報告書』1980 銭名は報告書の記述と一部異なるが、筆者が実見し判読した結果を載せている。
S94	東福寺	湯沢市駒形町東福寺字上野(旧稲川町)	明治40年頃(1907)	明治40年頃、東福寺字上野(俗称五輪石)の畑の崖上より銭貨約5,000点が出土。「表土下二尺位の処より丸木を割り抜いた船形の容器に棧木に積んで」あったそうである。出土当時銭種は、53種あったようであるが、現在は次の30種48点が確認されている。	開元通寶2、宋通元寶1、太平通寶1、淳化元寶1、至道元寶2、咸平元寶1、景德元寶1、祥符通寶1、天禧通寶1、天聖元寶3、明道元寶1、景祐元寶1、皇宋通寶4、至和元寶2、嘉祐通寶1、治平元寶2、熙寧元寶2、元豐通寶2、元祐通寶2、紹聖元寶1、元符通寶2、聖宋元寶3、大観通寶1、政和通寶2、宣和通寶3、紹熙元寶1、嘉泰通寶1、紹定通寶1、淳祐元寶1、治聖元寶?1	稲川町教委『稲川町史資料篇』第三集 1967
S95	牛形城跡	湯沢市駒形町大倉字館(旧稲川町)	大正末年	『秋田県の中世城館』によると、中世城館牛形城では、「大正末年に三居沢から宣徳通寶を下限とする明・宋銭が279点発掘され、漆埋蔵の伝説を伝える」との記載がある。	宣徳通寶	県教委『秋田県の中世城館』1981
S96	前田面	湯沢市駒形町三又字前田面(旧稲川町)	昭和41年	昭和41年8月21日、三又村字前田面において児童館敷地工事中、「表土下二尺位のところより高さ一尺、直径八寸の曲ワツパにびっしり詰込まれた古銭貨約七千枚」出土した。曲物の内部には漆が塗ってあったそうである。銭種が判明しているのは次の21種26点である。	開元通寶1、太平通寶1、咸平元寶1、祥符通寶1、天聖元寶1、皇宋通寶1、嘉祐通寶1、治平元寶1、熙寧元寶1、元豐通寶2、元祐通寶1、紹聖元寶1、元符通寶1、大観通寶1、政和通寶2、淳熙元寶1、紹熙元寶1、大定通寶1、洪武通寶1、永楽通寶1、宣徳通寶1	稲川町教委『稲川町史資料篇』第三集 1967
S97	稲庭城跡	湯沢市稲庭町古館(旧稲川町)	昭和61年	中世小野寺氏の居城とされる遺跡である。昭和61年、二ノ丸部分の調査が行われ、掘立柱建物跡、石垣状遺構、土坑等が検出。銭貨は遺構外より13点出土。寛永通寶は、報告で1点は寛文8年江戸所鑄銭、2点は元文紀伊中之島所鑄銭、残りは元文出羽秋田所鑄銭と思われる、との記載がある。	太平通寶1、至道元寶1、皇宋通寶1、元豐通寶(丸孔)1、皇宋元寶1、寛永通寶7、判読不能1	稲川町教委『稲庭城跡発掘調査報告書』1987

No.	遺跡名	所在地	出土時期	内容		文献
S98	館堀城跡	湯沢市寺沢 (旧雄勝町)	平成11年	二重の堀が巡る13～15世紀の平城跡である。銭貨は23点出土と報告されるが、作成者が実見した際には25点を確認している。うち8点が図示されている。遺構内出土は、柱穴(SKP)内2点のようである。	SKP1527:咸平元寶1、SKP167:元豐通寶1／遺構外:開元通寶(小型銭)1、太平通寶1、皇宋通寶1、治平元寶1、元豐通寶1、元祐通寶1、洪武通寶2、寛永通寶7、判読不能8	県教委『館堀城跡』2001
S99	長戸呂遺跡	湯沢市桑ヶ崎 (旧雄勝町)	平成14年	縄文時代後期の祭祀場跡と中世以降の掘立柱建物跡や木棺墓の可能性のある土坑も検出。銭貨は表採として2点が図示されている。	寛永通寶2	県教委『長戸呂遺跡』2005
S100	新屋敷遺跡	湯沢市桑ヶ崎 (旧雄勝町)	平成15年	溝で区画された13世紀代の居館跡である。近世には遺物散布地として陶磁器類が出土している。銭貨は土坑内1点、遺構外2点と報告されている。	SK17:判読不能1／遺構外:寛永通寶2	県教委『新屋敷遺跡』2005
S101	堀ノ内遺跡	湯沢市上関	平成15・16年	縄文後期末～晩期の墓域、古代～中世の集落遺跡、近世以降の遺物散布地である。銭貨は遺構外出土である。図・写真なし。	寛永通寶2	県教委『堀ノ内遺跡』2008
S102	羽後病院敷地遺跡	羽後町西馬音内字大戸道	平成5年	主に平安時代の遺物散布地である。平成5年に調査が行われ、Cトレンチ1区第2層より銭貨1点が出土した。	至大通寶1	羽後町教委「羽後病院敷地遺跡」『福島遺跡ほか発掘調査報告書』1994
S103	貝沢拾三本塚9号墳	羽後町貝沢字拾三本塚	昭和27年	13基の塚が一行に並び、いわゆる十三塚である。明治以降に破壊や盗掘にあい、現存するのは1基(7号墳)のみである。銭貨が出土した塚は次の4基のようである。 9号墳は、昭和27年に盗掘され、次の遺物が伝えられている。一字一石経、金小片(方形、重量3.2g)、銭貨32点。これらは「墳中に少し大きい自然石があり、その下」から出土したもののようである。	咸平元寶2、天禧通寶1、景祐元寶1、皇宋通寶5、治平元寶2、元豐通寶1、元祐通寶3、政和通寶5、宣和通寶3、紹熙元寶1、天口通寶3、口元通寶1、判読不能4	奈良修介「羽後町三輪十三本塚十号墳調査報告」『秋田考古学』第16号 1960
S104	貝沢拾三本塚10号墳	羽後町貝沢字拾三本塚	昭和35年	10号墳は、径7～7.2m、高さ1.22mの円丘状の塚である。昭和35年調査が行われ、墳丘内から477個の一字一石経と共に13点の銭貨が出土した。銭貨は「出土したとき3、4枚ずつ固着しており、その中の1片に人骨細片が付着していた。新潟大学小片保教授の鑑定によれば火葬骨である」ことが判明している。	開元通寶1、景德元寶1、天聖元寶3、皇宋通寶1、熙寧元寶1、元豐通寶3、元祐通寶1、聖宋元寶1、大觀通寶1	奈良修介「羽後町三輪十三本塚十号墳調査報告」『秋田考古学』第16号 1960
S105	貝沢拾三本塚11号墳	羽後町貝沢字拾三本塚	昭和25～28年	11号墳は、昭和25～28年頃までに盗掘され、宋銭、切遣いの譲葉金(方形、重さ2.8g)、経石が出土したようである。	—	畠山章弘「十三本塚出土の切遣い金と宋銭」『秋田銭貨ニュース』第20号 1977
S106	貝沢拾三本塚12号墳	羽後町貝沢字拾三本塚	昭和27年	12号墳は、昭和27年に盗掘され、宋銭13点、切遣い金の譲葉金(方形、重さ2.3g)、経石多数が出土したようである。	—	畠山章弘「十三本塚出土の切遣い金と宋銭」『秋田銭貨ニュース』第20号 1977